

ヒトプリオン病患者における髄液中のバイオマーカーの検討

研究分担者：長崎大学・院・感染分子解析学 佐藤 克也

1. 各国間のCJD患者における髄液中の14-3-3蛋白の感度・特異度

	感度	特異度
アメリカ	92.0%	80.0%
ヨーロッパ	70.3%	92.3%
アルゼンチン	71.3%	86.2%
イギリス	86.1%	80.1%
カナダ	88.1%	72.0%
日本	91.4%	78.8%

2. 異常プリオン蛋白試験管内増幅法 (Real-time QUIC法) とバイオマーカーを用いたヒトプリオン病の髄液の感度・特異度

96 definite sCJD症例+ 非プリオン病240 症例

	14-3-3 γ	t-tau	RT-QUIC
感度	91.7%	88.5%	82.3%
特異度	81.2%	86.8%	98.7%

3. サーベイランス委員会のデータに基づく前向き試験では

ヒトプリオン病患者における髄液中異常プリオン蛋白試験管内増幅法 (RT-QUIC法) の感度は孤発性プリオン病では80%、遺伝性プリオン病では69.1%、獲得性プリオン病では66.7%、特異度は97.1%であった。

解 説

1. 確実例96症例と非プリオン病240症例におけるRT-QUIC法とバイオマーカーの感度・特異度について検討を行った。
2. サーベイランス委員会のデータに基づく前向き試験ではヒトプリオン病患者における髄液中異常プリオン蛋白試験管内増幅法 (RT-QUIC法) の感度は孤発性プリオン病では80%、遺伝性プリオン病では69.1%、獲得性プリオン病では66.7%、特異度は97.1%であった。